

MERCEDES-BENZ C-CLASS W/S203



メルセデス・ベンツらしいCクラス。走りに重厚感のある203。

202の後継モデルとして、華のあるエレガントなボディをまとって2000年9月に登場した3代目コンパクトクラスの203。ちなみにコードネームはセダンがW203、ステーションワゴンがS203となる。当初用意されたのは自然吸気の2リッター直4を積むC180、2リッター直4スーパーチャージャーのC200コンプレッサー、2.6リッターV6のC240の3種。その後、ベースグレードが1.8リッター直4スーパーチャージャーのC180コンプレッサーに進化、上級グレードのC320(3.2リッターV6)も追加設定された。また、ステーションワゴンも2001年6月にリリースされている。

そして、認定中古車選びのポイントになるマイナーチェンジが実施されたのは2004年6月のこと。スポーティ感を強めたフロントグリルと質感を増したインテリアを採用したのが後期型のトピックだ。当初、セダン/ステーションワゴンともC200コンプレッサーとC240の間を埋める191psの1.8リッター直4スーパーチャージャーを搭載したC230コンプレッサーAVGが設定されたが、2005年8月には2.5リッターV6のC230AVGに進化、さらにC240と入れ替わるかたちで3リッターV6のC280AVGが上陸を果たした。つまり直4版のC230は約1年3カ月しか

導入されていなかった稀少モデルとなったわけだ。ちなみに、V6モデルには7段ATや17インチ・アルミホイールが採用されている。

さて、203の走行感覚はというと、メルセデス・ベンツらしい重厚感のある乗り味が真骨頂。直4スーパーチャージャーユニットでも2.5リッターV6並みの力強さとスムーズさを手に入れているし、路面に張り付くような安定感を披露してくれるサスペンションの設定も絶妙。その完成度の高さは高く評価していいだろう。それはもちろんボディの剛性感が一段と高いレベルに引き上げられていることも意味しているのだ。そして、素直なハンドリングも心地いい。実はステアリングを切ったときに、ドライバーの意図する角度だけスッと自然にノーズが向きを変えてくれる実用車というのは非常に少ない。そんな難しいことをサラリとやっつけるのがメルセデス・ベンツなのだ。高速でのどっしりとした重厚感、自然なハンドリング、風格のあるスタイリング、203はコンパクトクラスながらも「メルセデス・ベンツらしさ」を持つクルマと断言していいだろう。それは間違いなく名車「190E」の血を受け継いだものだ。「らしさ」という点では204より上なのかもしれない。

SPECIFICATION

C180 コンプレッサー・アバンギャルド

●全長×全幅×全高：4535×1730×1425mm ●ホイールベース：2715mm ●車両重量：1480kg ●エンジン形式：直列4気筒DOHCスーパーチャージャー、1795cc ●最高出力：143ps/5200rpm ●最大トルク：22.4mkg/2500-4200rpm ●変速機：5段AT ●駆動方式：後輪駆動 ●タイヤサイズ：前205/55R16 後225/50R16

C230 アバンギャルド

●全長×全幅×全高：4535×1730×1425mm ●ホイールベース：2715mm ●車両重量：1540kg ●エンジン形式：V型6気筒DOHC、2496cc ●最高出力：204ps/6100rpm ●最大トルク：25.5mkg/3500-4000rpm ●変速機：7段AT ●駆動方式：後輪駆動 ●タイヤサイズ：前225/45R17 後245/40R17

C200 コンプレッサー ステーションワゴン

●全長×全幅×全高：4550×1730×1465mm ●ホイールベース：2715mm ●車両重量：1540kg ●エンジン形式：直列4気筒DOHCスーパーチャージャー、1795cc ●最高出力：163ps/5500rpm ●最大トルク：24.5mkg/3500rpm ●変速機：5段AT ●駆動方式：後輪駆動 ●タイヤサイズ：205/55R16

C280 アバンギャルド

●全長×全幅×全高：4535×1730×1425mm ●ホイールベース：2715mm ●車両重量：1550kg ●エンジン形式：V型6気筒DOHC、2996cc ●最高出力：231ps/6000rpm ●最大トルク：30.6mkg/3500-4000rpm ●変速機：7段AT ●駆動方式：後輪駆動 ●タイヤサイズ：前225/45R17 後245/40R17


[車両検索](#)
[ディーラー検索](#)

MERCEDES-BENZ C-CLASS W/S204



より軽快に、よりスポーティ感を強めた現行型Cクラス

スリー・ポイントド・スターが見慣れた位置に立ち重厚感を強調した“エレガンス” (EL) とスポーティ感を際立たせたフロントグリルを持つ“アバンギャルド” (AVG) という2種類のエクステリアを採用して2007年6月にリリースされた現行型Cクラス。コードネームはセダンがW204、ステーションワゴンがS204となる。203の流れを継承するラインナップは、1.8リッター直4スーパーチャージャーを積むC200コンプレッサー EL/AVG、2.5リッターV6のC250 EL/AVG、AMGスタイリングパッケージと呼ばれるエアロパーツやスポーツサスペンションなどが装着される3リッターV6のC300AVG S。操作系では、Sクラスでお馴染みのCOMANDOシステムが採用され、ダッシュボード中央のモニターに、ナビやエアコン、オーディオなどの操作情報を一括して表示できるようになったのがトピックだ。2008年4月にはベースグレードとなるC200コンプレッサーが427万円が登場、またステーションワゴンも導入された。そして、2009年8月になると直噴方式を採用する新世代ユニットの1.8リッター直4ターボ搭載モデルが上陸を開始、C200系とC250がCGIブルーエフィシェンシーに切り替わっ

ている。さて走らせてみると、204のフィーリングは先代の203とずいぶん異なることに気づくはずだ。運転に慣れていない女性の方にも解るだろう。エンジンの吹けあがりやサスペンションのストローク感、またステアリング・フィールなど、とにかくすべてが軽快になっている。徹頭徹尾、各パーツはほとんどフリクションを感じさせないのである。特に1.8リッター直4スーパーチャージャーと直噴の1.8リッター直4ターボ・ユニットは先代よりさらに力強く、しかもスムーズ。そして3リッターV6かと思わせるほどトルキーで速い！ スロットルの僅かな開閉に対するレスポンスも見事というほかない。つまり、メカニズムの完成度が劇的に高められているのだ。クルマ好きの方にはぜひ試乗をお勧めしたい。神経を研ぎ澄まして粗探しをしてもまず欠点は見つけられないはず。すべての動作が重たかった190Eの末裔がまさかここまでの軽快なスポーティ感を身につけるとは。このクルマに隙はない。

SPECIFICATION

C200コンプレッサー・アバンギャルド

●全長×全幅×全高：4585×1770×1445mm ●ホイールベース：2760mm ●車両重量：1490kg ●エンジン形式：直列4気筒 DOHCスーパーチャージャー、1795cc ●最高出力：184ps/5500rpm ●最大トルク：25.5mkg/2800-5000rpm ●変速機：5段AT ●駆動方式：後輪駆動 ●タイヤサイズ：225/45R17

C250ステーションワゴン エレガンス

●全長×全幅×全高：4600×1770×1460mm ●ホイールベース：2760mm ●車両重量：1610kg ●エンジン形式：V型6気筒 DOHC、2496cc ●最高出力：204ps/6100rpm ●最大トルク：25.0mkg/2900-5500rpm ●変速機：7段AT ●駆動方式：後輪駆動 ●タイヤサイズ：205/55R16

C200 CGIブルーエフィシェンシー・アバンギャルド

●全長×全幅×全高：4585×1770×1445mm ●ホイールベース：2760mm ●車両重量：1500kg ●エンジン形式：直列4気筒 DOHCターボ、1795cc ●最高出力：184ps/5250rpm ●最大トルク：27.5mkg/1800-4600rpm ●変速機：5段AT ●駆動方式：後輪駆動 ●タイヤサイズ：225/45R17

C300アバンギャルド

●全長×全幅×全高：4585×1770×1445mm ●ホイールベース：2760mm ●車両重量：1550kg ●エンジン形式：V型6気筒 DOHC、2996cc ●最高出力：231ps/6000rpm ●最大トルク：30.6mkg/2500-5000rpm ●変速機：7段AT ●駆動方式：後輪駆動 ●タイヤサイズ：225/45R17



車両検索

ディーラー検索

MERCEDES-BENZ C-CLASS

W203 C 55 AMG

W204 C 63 AMG



アウトバーンの左車線に凌むスーパーセダン

メルセデス・ベンツの各クラスのボディをベースとしながら、ファインチューニングを施したハイパワーエンジンや独自に開発したサスペンションなどを搭載するクルマ好き垂涎のコンプリートカー“AMG”。1980年代までは派手なエアロパーツをまとった攻撃的なルックスが特徴だったが、近代AMGはボディにスタイリッシュなアレンジを施しながら大人の雰囲気仕立てるのが流儀となっている。

さて、まずはCクラス・AMGの変遷を復習しておこう。先陣を切ったのは202のAMG C36だった。1993年にリリースされたこのモデルは280psの3.6リッター直6DOHCが搭載されている。その後、V8SOHCのC43、C55と進化、また1998年にはステーションワゴンのC43Tも上陸を果たした。W203をベースとするC32AMG(3.2リッターV6スーパーチャージャー+5段AT)がデビューしたのは2001年。このときからAMGがメルセデス・ベンツのカタログ・モデルとして加わったため、名称はC32 AMGとなっている。

そして、Cクラス・AMGの5代目として登場したのがC55AMGだ。AMG社が203のコンパクトなエンジンベイに押し込んだのは367ps・52.0mkgのパワーとトルクを叩き出す5.5リッターV8SOHC。第一級の動力性能を持つことはも

ろんのこと、普段使いもこなす扱いやすさを持つのがC55AMGの真骨頂。インテリアにも最高級のナッパレザーとウッドを装着して一段と高級感を高めている。つまり、200km/hの高速巡航を軽々とこなす実力を持ちながら、街中では高級サルーンとして使える懐の深いクルマに仕立てられているのだ。

C55AMGの後継モデルとしてC63AMGが上陸したのは2007年10月のこと。搭載するエンジンはついに6.2リッターV8DOHC！この歴代最強ユニットはS63AMGに積まれるものと基本的には同じで、C63AMGの場合は457psのパワーに「抑えられた」という表現が相応しいだろう。つまり、そのまま積むとあまりにも過激な性格になるためデチューンされたことが容易に想像できる。ただし、車重を考えれば鋭い牙を持っていることに間違いはなく、パワーウェイト・レシオはレシングカー並み。また、トランスミッションも7Gトロニック・ベースのAMGスピードシフト・プラスとなっている。ところが、近代AMGの流儀に則って普段使いできるのがこのコンプリートカーのすごいところ。荒々しさとは無縁。というか、250km/h付近でも平穩に高速巡航が楽しめるのだ。もしかすると、C63AMGはサルーンにおける究極の「かたち」なのかもしれない。

SPECIFICATION

C55 AMG

●全長×全幅×全高：4620×1745×1410mm ●ホイールベース：2715mm ●車両重量：1650kg ●エンジン形式：V型8気筒、5438cc ●最高出力：367ps/5750rpm ●最大トルク：52.0mkg/4000rpm ●変速機：5段AT ●駆動方式：後輪駆動 ●タイヤサイズ：前225/40R18 後245/35R18

C63 AMG

●全長×全幅×全高：4720×1795×1440mm ●ホイールベース：2765mm ●車両重量：1800kg ●エンジン形式：V型8気筒DOHC、6208cc ●最高出力：457ps/6800rpm ●最大トルク：61.2mkg/5000rpm ●変速機：7段AT ●駆動方式：後輪駆動 ●タイヤサイズ：前235/40R18 後255/35R18



車両検索

ディーラー検索